

五四三三 「四紀」

蓋し體なる者は立す、

五四三四 神なる者は運す、

*五四三五 體は乃ち形を外に成す、形を成す者は、能く内なる者を統ぶ、
(形の右に外と傍記。)

五四三六 神は乃ち理を内に成す、内を成す者は、能く外なる者を貫く、故に

五四三七 發する者は氣を中に資る、

五四三八 收むる者は體を中に歸す、

五四三九 中外なる者は塊塊の位なり。

五四四〇 時今の古今を行くと偶するなり。故に

五四四一 大小は體を有す、而して

五四四二 中外は體を没す、

五四四三 持際は内を爲す、

五四四四 轉際は外を爲す、故に

五四四五 内は能く輻持す、

五四四六 外は能く輪轉す、

五四四七 中なる者は、無内の一點なり、

五四四八 外なる者は、無垠の塊塊なり、故に

五四四九 地持なる者は小なり、小なる者は猶お容るるの内有り、

五四五一 容るるの内無き者にして、而して後

五四五二 物として載せざる者莫し、物として載せざる者莫きが故に天地之に乗りて止る、

五五三―五四 天轉なる者は大なり、大なる者は猶お容らるるの處有り、

五五五 容らるるの處無き者にして、而して後

五五六 物として容れざる者莫し、物として容れざる者莫きが故に天地之に居りて立つ、

五五七 天地は一圓體なり。

五五八 氣は見れ體の露するよりして之を分てば。則ち

五五九 地は中を地心に於て占む、

五六〇 天は中を轉心に於て占む、

* 五六一―六二 轉心は中を兩端に貫く、外なる可き者は縫を半の地に合す、

五六三―六四 地心は中を無内に占む、外なる者は無垠に位す、故に

五六五 天地より之を言え、山壑水燥を載するの地は、中の一に乘る、

五六六 日月景影を容るるの天は、外の無垠に居る、

五六七 覆載より之を言え、覆おう所の日月景影は外を成す、

五六八 載する所の山壑水燥は内を成す、

五六九 轉持は内外を爲す、

* 五四七〇 轉守は中端を爲す、是を以て

五四七一 轉内は持を裏む、

五四七二 持外は轉を載す、

* 五四七三 斜より之を言え、規中は能く守る、

五四七四 守外は能く轉ず、

- 五四七五
- 五四七六
- 五四七七
- 五四七八*
- 五四七九
- 五四八〇
- 五四八一
- 五四八二
- 五四八三
- 五四八四
- 五四八五
- 五四八七
- 五四八八
- 五四八九
- 五四九〇
- 五四九一
- 五四九二
- 五四九三
- 五四九四
- 五四九五
- 五四九六

轉じて西を爲す、
 守つて北を爲す、
 西面は象に逆う、
 北外は守を環る、
 逆を東と爲す、
 環を南と爲す、

西北は則ち天の定方なり、
 上下は則ち地の靜位なり、
 東南は則ち轉の動方なり、
 内外は則ち持の動位なり、

氣は動靜を分ちて、動は轉じ靜は持す、
 外を轉處と爲す、
 内を持處と爲す、

物は虚實を分ちて、虚天實地は、
 下を地體と爲す、
 上を天體と爲す、

内下は則ち本なり、本なれば則ち中に歸して止る、
 外上は則ち末なり、末なれば則ち塊塊に之きて際涯無し、
 轉は運を分つ。而して背馳を爲す。是に於てか。
 氣は東西南北を運す。
 混焉たる大物は、中を以て其の依と爲す、

(PB 388)

- 五五九七
- 五五九八
- 五四九九
- 五五〇〇
- 五五〇一
- 五五〇二
- 五五〇三
- 五五〇四
- 五五〇五
- 五五〇六
- 五五〇七
- 五五〇八
- 五五〇九
- 五五一〇
- 五五一一
- 五五一二
- 五五一三
- 五五一四
- 五五一五*

上下内外の位の本づく所は、散結發收の由る所なり、
 滾焉たる轉氣は、極を以て其の依と爲す、
 東西南北の方の成る所は、噓喻運轉の資る所なり、是に於て
 動は其の形を斜にす、而して以て方を行く、
 靜は其の形を正にす、而して以て位に居る、
 車は輪を有すると雖も、而も輪は軸に依りて旋らざること能わず、
 軸は旋に幹たりと雖も、而も軸は輪を用いて行かざること能わず、是を以て
 西に向いて旋る者は、氣なり、
 正立して之を西に向わしむる者は、氣の幹なり、故に之を西軸と爲す、
 東に向いて旋る者は、運なり、
 斜側して之を東に向わしむる者は、氣の幹なり、故に之を東軸と爲す、
 西軸は止りて其の位を守る、
 東軸は動きて西軸を環る、故に
 東西なる者は、各輪旋すれば、則ち
 東西に指點の地無し。唯だ
 運輪は其の一規に通じて、東せざる所莫し、
 轉輪は其の一規に通じて、西せざる所莫し、
 已に一規に通じて、西せざる所莫ければ、則ち其の軸を爲して守る者は、
 兩端に通じて、而して北せざるを得ず、
 (其のを欠くか)

(I 439a)

- 五五二〇
- 五五二一
- 五五二二
- 五五二三
- 五五二四
- 五五二五
- 五五二六
- 五五二七
- 五五二八
- 五五二九
- 五五三〇
- 五五三一
- 五五三二
- 五五三三
- 五五三四
- 五五三五
- 五五三六

五五一六 已すでに一規いちぎに通つうじて、東ひがしせざる所ところ莫なければ、則すなわち其そのの軸じくを爲なして環めぐる者ものは、
 五五一七 * 其そのの兩端りょうたんに通つうじて、而しかして南みなみせざるを得えず、是この故ゆえに

五五一八 西北せいほくの方ほうなる者ものは豎たてなり、
 五五一九 東南とうなんの方ほうなる者ものは横よこなり、

五五二〇 人ひとは天地てんちの半はんを以もつて。巳おのれの天地てんちと爲なす。

五五二一 其そのの中央ちゆうおうに立たちて。衡こうじゆう從これ之のぞを望のぞむ。是ここに於おいて守しゅじく軸りょうたんは兩端なを爲なす。

五五二二 一いちを北きたと爲なす、

五五二三 一いちを南みなみと爲なす、

五五二四 日にち去さるの方ほうを西行中線せいこうちゆうせんの向むかう所ところに取りとりて、以もつて西にしと爲なす、

五五二五 日にち來きたるの方ほうを西行中線せいこうちゆうせんの背そむく所ところに取りとりて、以もつて東ひがしと爲なす、是ここを以もつて

五五二六 靜せいを言いいて動どうを遺のこす者ものは。未いまだ全ぜんを言いうに足たらず。

五五二七 然しかりと雖いえども豎たては兩向りょうこうを爲なして。而しかして人ひとは半體はんたいの天地てんちに在あり。

五五二八 動どうなる者ものは定さだまらざれば。則すなわち定さだまる者ものに就つきて方ほうを取とる。

五五二九 定さだまる者ものに就つきて方ほうを取とれば。則すなわち靜せい規矩きくに從したがう。

五五三〇 東西南北とうせいなんぼくを定さだめるは。亦また人ひとの以もつて廢はいす可べからざる者ものなり。是ここを以もつて

五五三一 全方ぜんほうなる者ものの、動どう靜せいの規矩きくに成なるは、天てんなり、

五五三二 偏方へんほうなる者ものの、十じゅう字じの衡こうじゆう從なに成なるは、人じんなり、

五五三四 是ここを以もつて升降しょうかうは内うちに輻持ふくじす、

五五三五 運轉うんてんは外そとに輪轉りんてんす、運うんすれば則すなわち東ひがしす、

五五三七―三八

五五三九

五五四〇

五五四一

五五四二―四三

五五四四

五五四五―四六

五五四七―四九

五五五〇

五五五一

五五五二

五五五三

五五五四―五五

五五五六―五七

轉てんずれば則すなわち西にしす、西にしは則すなわち北きたを守るまもる、

東ひがしは則すなわち南みなみを守るまもる、故ゆえに

上下じょうげ内外ないがいは、圓えんを以もつて其その中ちゆうに成なる、之これを心しんと謂いう、

東西南北とうせいなんほくは、矩くに由よりて其その中ちゆうに成なる、之これを極きよくと謂いう、

一いちは必かならず二にを具ぐす。是ここを以もつて靜圓せいえんは中ちゆう外がいを得えれば、則すなわち

動直どうちよくも亦また中ちゆう外がいを得える、唯ただ

靜圓せいえんは中ちゆうを得えて以もつて無内むないを成なす、外がいを得えて以もつて無外むがいを成なす、

動直どうちよくは中ちゆうを得えて以もつて至狹しきようを爲なす、外がいを得えて以もつて至廣しこうを爲なす、極きよくの成なる所ところなり。

形けいなる者ものは圓えんにして直ちよくを成なす、故ゆえに直圓ちよくえんは正形せいけいを爲なす、

理りなる者ものは直ちよくにして圓えんを成なす、故ゆえに規矩きくは斜形しゃけいを爲なす、

規矩きくは理りを經緯けいゐに分わかつ、

直圓ちよくえんは形けいを内外ないがいに混こんず、故ゆえに

中ちゆう外がいの成なる所ところは、直圓ちよくえん各おのおの有あり。之これを平たいらにすれば則すなわち中邊ちゆうへんなり、之これを長ながくすれば則すなわち中端ちゆうたんなり、剖析ぼうせきの成なる所ところなり。

(PB 390)

(I 439b)